

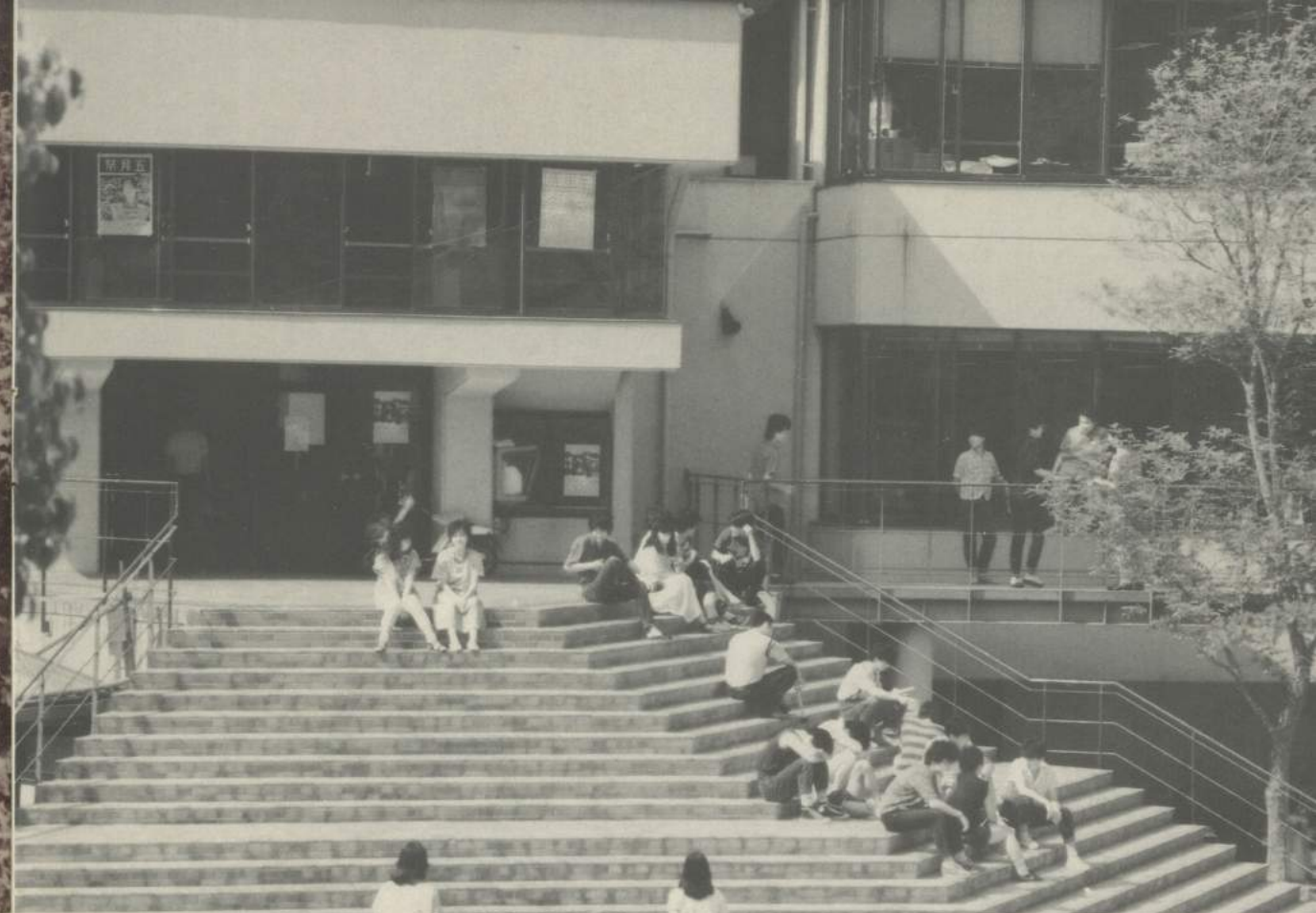


学長のことば	3
一般教育	4
短期大学部 英語英文科	6
英語英文科授業紹介	10
教員組織(短期大学部 英語英文科)	12
美術学部	13
造形学科	14
デザイン学科	16
学外実習制度	19
教員組織(美術学部)	20
図書館案内	21
アッセンブリーアワー	22
学外教育施設	24
厚生	25
クラブ・行事	27
卒業後の進路	28
VOICE	30
大学への交通案内	

京都精華大学

大学案内

1986



学長のことば	3
一般教育	4
短期大学部 英語英文科	6
英語英文科授業紹介	10
教員組織(短期大学部 英語英文科)	12
美術学部	13
造形学科	14
デザイン学科	16
学外実習制度	19
教員組織(美術学部)	20
図書館案内	21
アッセンブリーアワー	22
学外教育施設	24
厚生	25
クラブ・行事	27
卒業後の進路	28
VOICE	30
大学への交通案内	



学長のことば

「伝統」というと歴史につちかわれてきた古いものという印象があります。

京都精華大学は一九六八年に創立された新しい大学です。もし伝統が五十年、百年という長い時間において形成されるものとすれば、われわれの大学に伝統はないということになります。しかし伝統とは形式よりも内容、つまり精神や理念の問題ではないでしょうか。

伝統の「統」は筋道ですから、伝統とは「筋道を伝える」という意味です。英語では「tradition」といいますが、これはラテン語の「tradere」、つまり「伝える」という言葉からきています。精神を伝えていくということが伝統であるなら、そこに長い短い、古い新しいの別はないはずですよ。



われわれの大学には創立以来、伝えられ、受けつがれてきた、一つの理念があります。それは「自由自治」ということです。この単純な、しかし困難な、そして魅力的な理念が、われわれの伝統です。

京都精華大学は、この自由自治によって解放され、同時に拘束されています。これをどう理解するか、実践するかが、学生と教職員のきびしい、また楽しい課題です。

ところで最近の若者に「伝統という言葉から、どんなものを連想するか」と訊ねてみると、古くからある立派なもの、重々しい大切なもの、京都の由緒ある寺、金時絵の工芸品、葵祭といった答えが返ってきます。その多くはプラス・イメージです。

しかし中年以上の人におなじ質問をしたら、煩雑なしきたり、無意味な因襲、家制度といったマイナス・イメージの回答もかなりあると思います。それらの人々は戦争中の伝統礼讃に懲りて、伝統を批判し、それに抵抗することによって、思想や生きかたを形成してきたからでしょう。

現代の青年は保守化したといわれていますが、それは当たっていないと思います。保守や進歩という概念自体が変ってきているからです。というより、そのように二つに分けて、是非を決めること

が、すでに一つの形式的思考ではないでしょうか。年配の人も、いまあらためて伝統というものを見なおしているはずですよ。伝統と革新が不思議に一致するという状況になってきているからです。

昨年、本学の伝統工芸講座で映されたスライドがあります。最新式のオートバイを上から見た写真と、古い木彫の不動明王の写真を並べ、それを少しづつ重ねあわせていくと、みごとに一つの像、おなじデザインになるのを見て、学生達は歓声を挙げました。

真の伝統は古くて、新しいものです。われわれも少しづつ古くなっていくように思われる「自由自治」の伝統を、たえず新しいものとしてよみがえらせていきたいと願っています。

学長／笠原芳光